

本調査（「中学生の英語学習に関する実態調査」）の設計は、2013年に行った「中学生に対する聞き取り調査」の分析により明らかになった中学生の英語学習の実態・課題に基づいて行った。聞き取り調査は、中2生8名、高2生8名、合計16名に実施した。ここでは、その一次分析から見てきたことを紹介する。

【普段の英語学習の様子】

- 伝統的な予習や宿題が中心
 - ・「左に本文、右に和訳」のノートやワークシートを多くの生徒が使っている。
 - ・授業中の言語活動と関連していると思われるような学習は生徒からほとんど述べられない。
 - ・大学の「英語科教育法」の授業では紹介されないような訳読中心などの方法で指導を受けている。
- 英語の授業に対する意識には生徒によって違いが見られる。
 - ・中学生は授業をおおむね受け入れている。
 - ・授業の中で行うことに、自分なりにその意義を見出そうとして、納得しながら勉強している生徒もいる。
 - ・高校生の中には、今受けている授業を批判的に捉えている生徒もいる。
- 学校での勉強が、学校外での学習を規定する割合が大きい。
 - ・日々の学習は、学校の予習・宿題、テスト対策がほとんどである。
 - ・中学生だけでなく高校生も、家庭での学習は授業の予習（本文写し、単語の意味調べ、本文和訳など）や小テスト対策の勉強が大部分を占めていると思われる。
- 先生の影響が大きい。先生との関係性が影響している。
 - ・先生の指導通りに学習を行っている生徒が大部分である。
 - ・先生との良好な関係により、英語に対して積極的に取り組んでいる生徒も多い。

【英語に関する意識】

- 子どもにとって「英語ができる」ということは「長文読解力が高い、文法がわかる」ということ。
 - ・多くが、「話す」「聞く」などは、大学に行ってからやればいい、と考えている。
 - ・英語を実際に使うということを前提とした英語学習観が欠如している。
 - ・話すためには、まずは文法や単語が大切だと強く思っている。
- 「将来英語を使うこと」と「今やっていること」の乖離がみられる。
 - ・将来、英語を使って仕事をしたいと考えている一人の生徒が、それに向けて今やるべきことは、「スペリングミス無くすこと」と答えた。
 - ・英語を使って仕事をしてみたいと思っても、英単語の練習の際に日本語訳も一緒に書いて覚えていたり、本文を書き写すのに2時間かけていたりする生徒もいる。

【その他】

- 学校外での英語学習を始めたきっかけはそれぞれ異なる。
 - ・英語学習を始めたきっかけはそれぞれ違う。必ずしも大きいきっかけばかりではない。
例) 修学旅行で外国人に道を聞かれた、小さいころ祖母にABCの歌を歌ってもらって興味をもった、など。
- 学校の学びに終始している生徒が多いようだが、その中でも学習における小さな自律の芽もある。
 - ・同じ予習でも、やり方を自分で考え、選択して行っている生徒もいる。
 - ・自ら英語のプレゼンテーションの番組を見たり、洋楽を聴いたり（歌詞の聞き取りを意識したり、歌詞カードを見たり）という学びもある。

- ◆ 二次分析では、質的研究法であるThinking at the Edge (TAE) にて分析
⇒ 分析結果の一部は、2013年度ARCLE*シンポジウムにて報告
本聞き取り調査や分析結果についてはhttp://www.arcle.jp/report/2013/0005_3.html/参照
* ARCLE ベネッセ教育総合研究所が運営する英語教育研究会